

【年間テーマ：認知症患者さんに対する抑制について】

平成28年4月10日提出

日付	平成28年4月9日（土）			
場所	ホテルセントラザ博多		記録者名：別府 憲一	
出席者 (敬称略)	有吉病院 西崎 順一	大牟田共立病院 古我城 真由美	北九州古賀病院 古川 由貴	北九州八幡東病院 花田 仁美
	シーサイド病院 浦田 真由美	津屋崎中央病院 大森 雄樹	東福岡和仁会病院 別府 憲一	東福岡病院 藤井 佐和子
	福岡みらい病院 内田 智子	福西会南病院 大見 和也	緑ヶ丘病院 宮川 晶	
テーマ	年間テーマとスケジュール決め			
結論	<p>・現状として、おむつ触りのある患者さんに対して、ミトンやつなぎ服を使用している。立ち上がり転倒の危険性のある患者さんにY字帯を使用しているなど。また、スピーチロックの問題なども抱えている。これらを踏まえて、今後は認知症患者さんへの抑制、対応策などを議論していく。</p>			
決定事項	<p>○年間テーマを「認知症患者さんに対する抑制について」とし、6月は身体的抑制について（ミトン、Y字帯、つなぎ服、センサーマットなど）＝なぜその抑制をしているのか？現状と原因から議論する。</p> <p>○8・10・12月は順次内容を決定する事とする。</p> <p>○2月は一年間の活動発表の場とする。</p>			
備考	<p>今回、リーダーは津屋崎中央病院の大森雄樹さんに担当して頂きました。</p>			
次回討論項目	<p>身体的抑制について、なぜのその抑制をしているのか？現状と原因について各自、病院の抑制の現状がわかる資料などを持ち寄る。</p>			

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-メールアドレス info@fukuokakenryo.jp

(FAX.092-691-3961)